（福井県）

Ⅰ．学校の概要

福井市立松本小学校									
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	3	3	1	１９	
児童数	113	119	107	113	102	116	8	６７４	２８

Ⅱ．実践研究の概要

１．主題（テーマ）

人とのかかわりあいの中で、共に考え、高めあう子をめざして
－学ぶ力（学ぶ意欲、学び方）を育む学習をめざして－

２．内容と方法

(1)実施学年・教科

２年生　道徳（学ぶ意欲や学び方を育む上で、心を豊かにすることは有効であるため。）
５年生　算数（子供の理解に差が出やすく、個に応じた指導がより必要とされるため。）
６年生　算数（内容が難しくなり、子供の理解に差が出やすい教科であるため。）
６年生　理科（昨年度の実践成果をもとに、実施教科の枠を広げるため）

○共通理由（算数科のみ）

・１年生から６年生まで、ＴＴと少人数を併用することにより、算数による一貫した指導体制がとれるため。

(2)年次計画

平成14年度

○テーマ

・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善（算数科を中心に）

○仮説

・個に応じた指導方法・指導体制を工夫すれば、児童の学び方に対する適切な支援ができるとともに、学ぶ意欲も高まり、確かな学力の向上に寄与できる。

○研究内容・方法

①「生きる力」を育む中での学ぶ力の基礎基本の位置づけを明らかにする。
②学ぶ力の基礎基本を教科領域にとらわれることなく、明確なものとする。
③学ぶ力の基礎基本を明らかにしながら、学習を組み立てていく。
④一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、算数科を中心に、理解や習熟の程度に応じたよりよい指導体制を創造する。
⑤一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、算数科を中心に、理解や習熟の程度に応じた学習を組み立てていく。
⑥松本の子供に即し、地域を生かした学習および学習環境を創造する。

１学期に保護者に対しアンケートを取り、親と子の希望によりコース（確実コース、普通コース）を選択させて、２学期より、５・６年生で、算数科の少人数学級を実施している。途中でのコース変更は自由とし、差別感が生じないように配慮している。

また、さまざまな考えを出し合う場面や単元の最初の導入部分では、少人数とはせずに、クラス単位で授業を行い、コース変更の機会を作っている。

◎コースの違いに関して（例）

どちらのコースも教科書を中心に指導し、
・普通コースでは、演習問題やドリルに当てる時間を多くとる。
・確実コースでは、考え方や理解に当てる時間を多くとる。

平成15年度

○テーマ
・個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
○仮説
・個に応じた指導方法・指導体制を工夫すれば、心が耕されて児童の学び方に対する適切な支援ができるとともに、学ぶ意欲も高まり、確かな学力の向上に寄与できる。
○研究内容・方法
①「生きる力」を育む中での学力向上フロンティア事業の位置づけを明らかにする。
②前年度の学ぶ力の基礎基本を再検討する。
③学ぶ力の基礎基本を明らかにしながら、学習を組み立てていく。
④一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、理解や習熟の程度に応じたよりよい指導体制を創造する。（算数科を中心に）
⑤一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、理解や習熟の程度に応じた学習を組み立てていく。
⑥松本の子供に即し、地域を生かした学習および学習環境を創造する。
⑦「心を耕す」ことにより、学ぶ意欲を高め、学び方を育む。

１学期当初、保護者にアンケートを取って、親と子の希望によりコース（確実コース、普通コース）を選択し、５・６年生で算数科の少人数学級を実施している。途中でのコース変更は自由とし、差別感が生じないように配慮している。
また、さまざまな考えを出し合う場面や単元の最初の導入部分では、少人数とはせずに、クラス単位で授業を行い、コース変更の機会を作っている。
１年生から４年生までは、多様な考えや計算のドリル学習に当てる時間の必要性から、ＴＴをメインとした指導形態を取っている。
算数科以外は、少人数指導の体制はとらずに、教科の基礎基本の定着をより一層図るために、指導過程の工夫や教材教具の工夫等をおこなっている。
◎コースの違いに関して（例）
どちらのコースも教科書を中心に指導し、
・普通コースでは、演習問題やドリルに当てる時間を多くとる。
・確実コースでは、考え方や理解に当てる時間を多くとる。

平成16年度

○テーマ
・学ぶ力を生かした授業の創造
○仮説
・学ぶ力を生かした授業を展開すれば、児童の学び方がよりいっそう深まるとともに、学ぶ意欲も高まり、確かな学力の向上に寄与できる。
○研究内容・方法
①すべての教科等において必要とされる学ぶ力の基礎基本を明確なものとする。
②学ぶ力の基礎基本を生かしながら、学習を組み立てていく。
③教師の特技や専門性を生かしながら、児童を多面的にとらえる指導体制を創造する。
④一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、理解や習熟の程度に応じたよりよい指導体制を創造する。
⑤一人ひとりの子供（個性）の成長を支え続けるために、理解や習熟の程度に応じた学習を組み立てていく。
⑥松本の子供に即し、地域を生かした学習および学習環境を創造する。

(3)研究体制

校長

教頭

研究推進委員会
(教務 研究 ﾌﾛﾝﾃｨｱ 各研究部部長・副部長)

フロンティア推進部	学習環境部	ふれあい活動部
○岩本	木田	高柳
舟岡	川端澄	菓子尾
中谷	吉川	高村政
◎高嶋	◎芦野	辻岡
林	○川端弘	○川畑
高久	笠原	◎吉田晴
玉村	高村多	浅原
吉田明	石田	山中
伊東	伊部	

	低学年部会		中学年部会		高学年部会	
学年会	1年	2年	3年	4年・なかよし	5年	6年
	岩本 木田 高柳 伊部	川端澄 菓子尾 吉田明 山中	高村政 吉川 中谷 玉村	辻岡 高嶋 芦野 石田 伊東	川端弘 林 川畑 舟岡 高村多	吉田晴 高久 笠原 浅原
授業者 教　科	岩本 算数	川端澄 道徳	中谷 算数	芦野 算数	川畑 算数	高久 理科
研究会	公開	公開	全体 半日	公開	公開	公開

Ⅲ．平成１５年度の成果および課題

１．成果

・クラスの人数が少なくなるため、一人ひとりへの指導時間を増やすことができる。
・保護者と児童の希望を主にしているため、差別感を意識させることがない。
・クラス全体では発表しなかった児童が、少人数になるとよく発表するようになった。
・今まで発表しなかった児童が少人数以外の時間でも発表できるようになってきた。
・教師間の教材観と指導方法の交流ができ、教材研究が深まる。
・複数の教師でクラスを担当するため、児童の実態把握がより確かになった。
・クラスを解いて学年で取り組む少人数より、クラスごとの少人数の方が進度調整等に柔軟に対応できる。

２．今後の課題

・少人数学級でも遅れがちな児童に対する支援方法。
・教師間の打合せ時間の十分な確保。
・子どもの実態に合わせ、効果的にＴＴと少人数を使い分ける指導方法。
・意欲や学び方に関する適切な評価方法。

Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

・プレテストを実施することにより、子供の実態を的確に把握し、少人数指導にフィードバック。
・学び方や意欲に関しては、複数の教師による観察法

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

・学校のホームページで、考え方や取組み等の公開

・学力向上フロンティアスクールの公開授業
日時　平成 15 年 11 月 27 日
場所　福井県福井市松本小学校
内容　公開授業（１・４・５年は算数、２年は道徳、６年は理科）
対象　福井・高志地区各小・中学校の教員

・平成１５年度　学力向上推進協議会（第２回教務主任研修会）
日時　平成 16 年 1 月 20 日
場所　福井県生活学習館
内容　当研修会において、本校の実践発表
対象　嶺北地区各小・中学校の教務主任
　　その他、参加を希望する教員や保護者

【新規校・継続校】	１４年度からの継続校
【学校規模】	１９～２４学級
【指導体制】	少人数指導　ＴＴによる指導
【研究教科】	算数　理科　その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	有